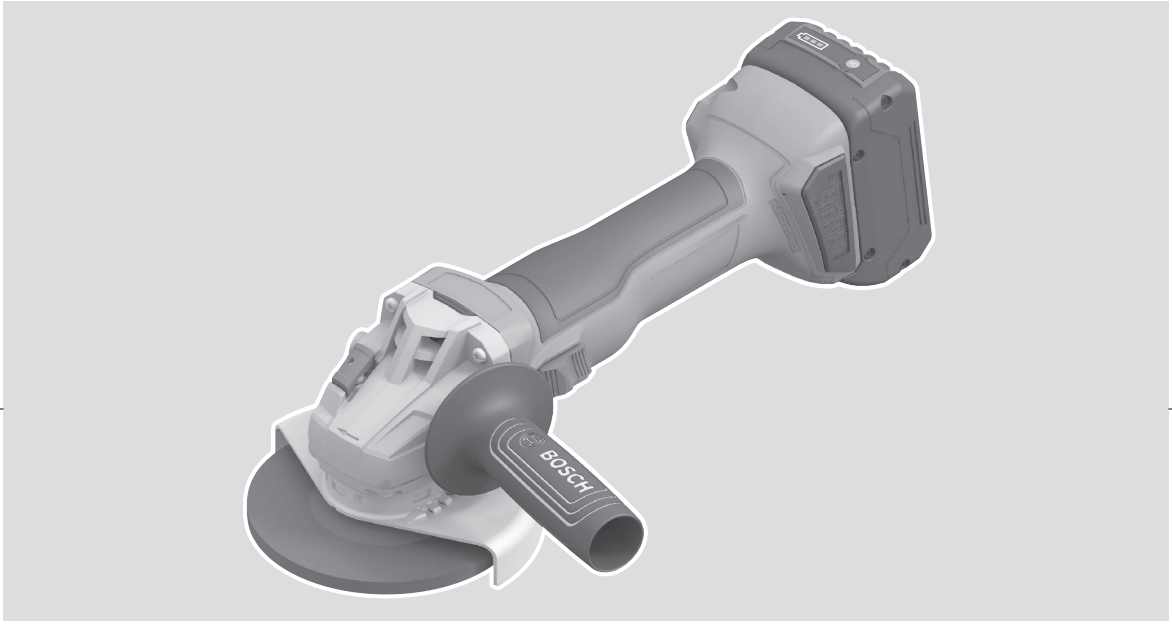
BOSCH

GWS 18V-8



取扱説明書

このたびは、弊社コードレスディスクグラインダーをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

- ご使用になる前に、この『取扱説明書』をよくお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、この『取扱説明書』を大切に保管してください。わからないことが起きたときは、必ず読み返してください。
- 充電については、『充電器の取扱説明書』を併せてお読みください。

目次

用途 6

記号について 6

警告表示の区分 6

安全規則 6
一般安全規則 6
研削、研磨、ワイヤーブラシ研磨、つや出しまたは砥石切断作業に共通の安全警告 8
キックバックおよび関連警告 9
研削および砥石切断作業に固有の安全警告 10
砥石切断作業に固有の追加の安全警告 10
研磨作業に固有の安全警告 11
ワイヤーブラシ研磨作業に固有の安全警告 11

安全上のご注意 11
コードレス電動工具全般についての注意事項 11
ディスクグラインダーについての注意事項 15

本製品について 17
各部の名称 17
標準付属品 18
仕様 18

使い方 18
バッテリーを準備する 18
作業前の準備をする 19
作業する 24
ギアハウジングの角度を調節する 26

バッテリーを長持ちさせるために 26

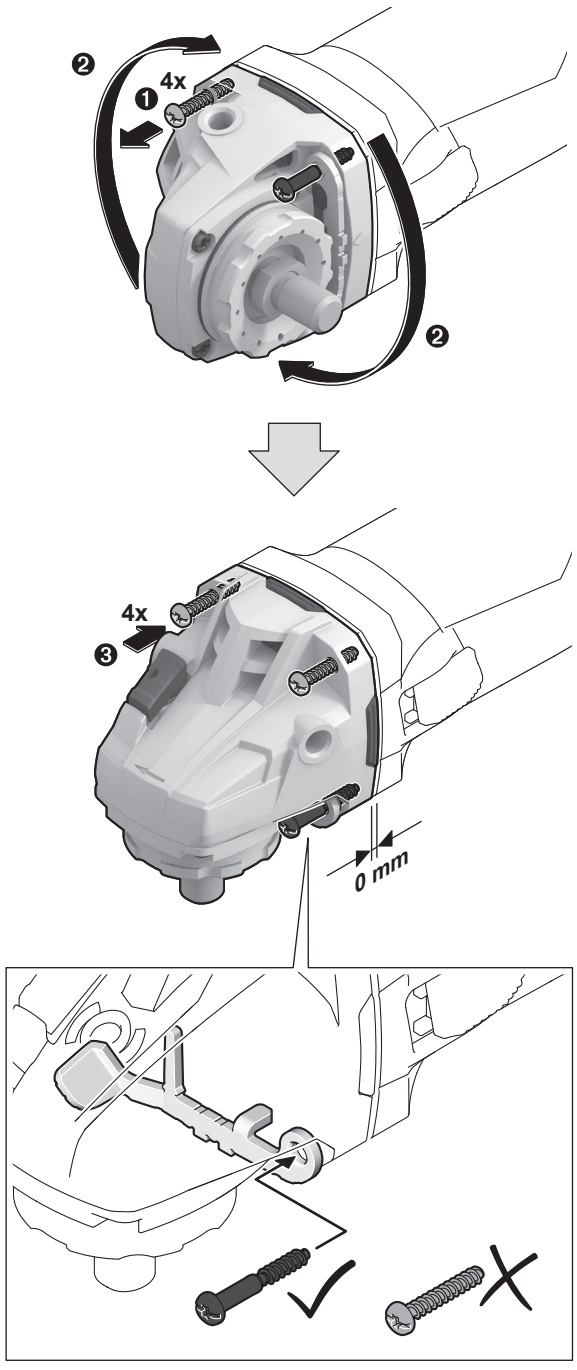
リサイクルのために 27
使用済みバッテリーのリサイクルにご協力ください 27

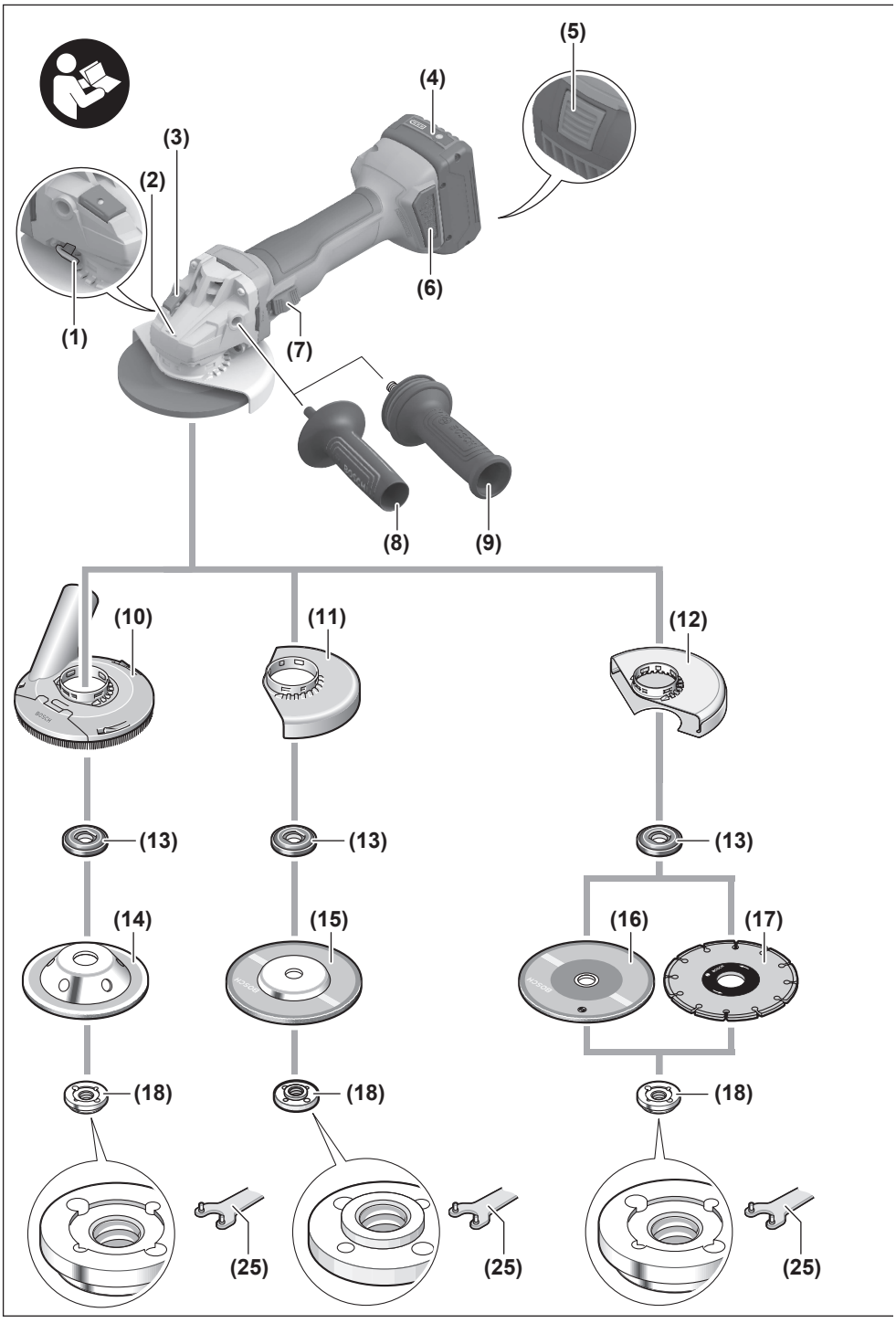
お手入れと保管 27
クリーニング 27
保管 27
廃棄について 27

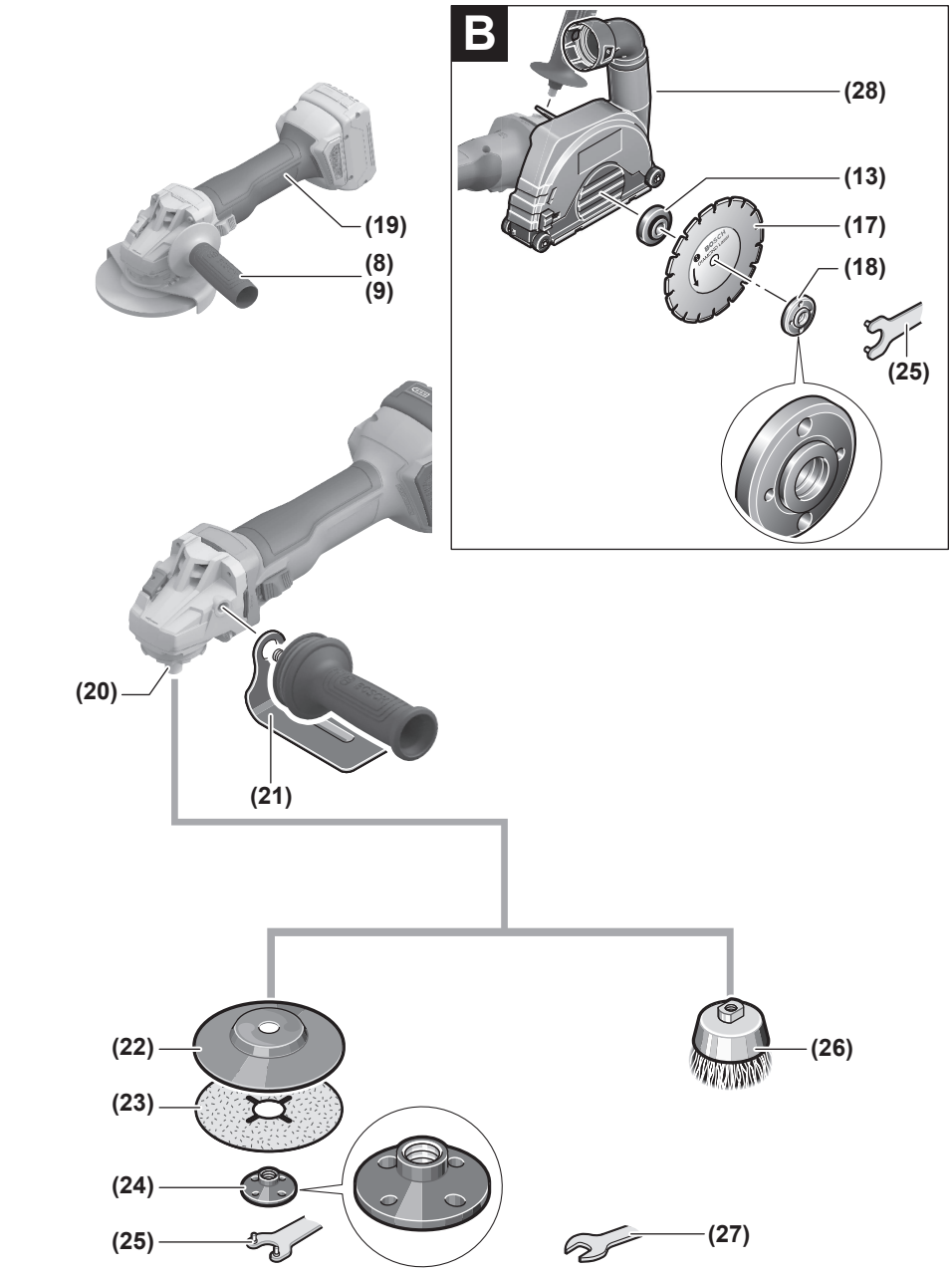
困ったときは 27
故障かな?と思ったら 27
修理を依頼するときは 28

保証サービスについて 28

A




(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
(12)
(13)
(13)
(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)
(18)
(18)
(25)
(25)
(25)


B
(19)
(8)
(9)
(28)
(13)
(17)
(18)
(25)
(20)
(21)
(22)
(23)
(24)
(25)
(26)
(27)

用途

適切な先端工具を使用することで、以下の用途に使用できます。
◆ 各種研磨・研削（金属類、石材など）
◆ 鉄などのバリ取りおよび仕上げ
◆ 塗装面の下地仕上げ、さび落とし、塗装落とし
◆ 金属類の切断（全ネジなど）
◆ タイル、コンクリートなどの溝入れ

記号について

警告銘板、電動工具、取扱説明書には下記の記号が表示されています。
記号の意味を十分理解して電動工具を使用してください。
記号の正しい解釈は、商品をより安全な方法で使用するために役立ちます。

	注意してください
	けがのリスクを軽減するために取扱説明書をお読みください
	ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください
	ビニール袋は窒息の危険があります この袋は赤ちゃんや子どもから遠ざけてください
	リサイクル識別表示マーク（リチウムイオンバッテリー）
	リサイクル識別表示マーク（紙製容器包装）
	リサイクル識別表示マーク（プラスチック製容器包装）
	直流
	作業中は、保護めがねを着用してください
	電動工具は両手でしっかり持ち、安定した足場を確保してください 電動工具をより確実にガイドできます
	移動方向
	許可される行為
	禁止行為

警告表示の区分

ご使用上の注意事項は、**危険**、**警告**、**注意**に区分していますが、それぞれ次の意味を表わします。

⚠危険
◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が大きい内容のご注意。

⚠警告
◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意
◆ 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、**注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

安全規則

一般安全規則

⚠警告

取扱説明書の内容すべてをよくお読みください。
下記に記載した指示に従わなかった場合は、感電、火災、重傷を招く恐れがあります。

下記に記載したすべての警告における“電動工具”という用語は、電源式（コード付き）電動工具または、電池式（コードレス）電動工具を示します。
次の事項を順守してください。

a) 作業場

1) 作業場は整理整頓し、十分な照明を保ってください。散らかった暗い場所は、事故の原因になります。
2) 爆発を引き起こす恐れのある可燃性液体、ガスまたは粉じんがある場所では、電動工具を使用しないでください。
電動工具は、粉じんまたはヒュームを発火させる恐れがある火花を発生する場合があります。
3) 電動工具の使用中は、子供および第三者を近づけないでください。注意が散漫になり、操作に集中できなくなることがあります。

b) 電気的安全性

1) 電動工具の電源プラグは、電源コンセントに合ったものを使用してください。電源プラグの改造は、絶対に行わないでください。アダプタプラグを接地した電動工具と一緒に使用しないでください。
改造していない電源プラグおよびそれに対応するコンセントを使用すれば、感電する危険が低減されます。
2) パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫など、接地処理された媒体と身体が接触するのを避けてください。
身体が接触すると、感電する危険が増大します。

屋外で使用する際には、3)～5)の注意が必要です。

3) 電動工具、バッテリーは、雨ざらしにしたり、湿気のある状態にさらしたりしないでください。水が入ると、感電する危険が増大します。
4) 電源コードは乱暴に扱わないでください。コードを使って電動工具を運んだり、コードを引っ張ったり、コードを引っ張って電源コンセントから抜いたりしないでください。また、コードを熱、油、角のとがった場所、また可動部に近づけないでください。コードが損傷したりもつれたりしていると、感電する危険が増大します。
5) 電動工具を屋外で使用するときは、屋外使用に合った延長コードを使用してください。屋外使用に合った延長コードを使用すれば、感電する危険が低減されます。

c) 人的安全性

1) 電動工具の使用中は、油断せず、いま自分が何をしているかに注意し、常識を働かせてください。疲労していたり、薬・アルコールを服用していたりするときには、電動工具を使用しないでください。電動工具使用中に一瞬でも注意力が低下すると、重大なけがをする危険があります。
2) 安全保護具を着用してください。常に保護めがねを着用してください。防じんマスク、滑り止め付き安全靴、ヘルメット、耳栓などの安全保護具を適切に着用することで、傷害事故が低減されます。
3) 意図せず作動開始しないよう、気をつけてください。電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、必ずスイッチが“切”になっていることを確認してください。指をスイッチに掛けて電動工具を運んだり、スイッチが“入”になっている状態で電動工具の電源プラグを電源コンセントに差し込むと、事故の原因になります。
4) 電動工具の電源を入れる前に、調節キーやレンチなどは、必ず取り外してください。電動工具の回転部に調節キーやレンチを付けたままにしておくと、人的傷害の原因になります。
5) 無理な姿勢で作業をしないでください。常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。これにより、予期せぬ状況でも電動工具をより適切に操作することができます。
6) きちんとした服装で作業してください。だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は着用しないでください。髪、衣服、手袋を、電動工具の回転部に近づけないでください。だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具、長髪は、回転部に巻き込まれる恐れがあります。
7) 集じん装置が接続できるものは、適切に使用されていることを確認してください。集じん機などを使用することで、粉じんに関係する危険を低減することができます。

d) 電動工具の使用および手入れ

1) 電動工具を、無理に使用しないでください。目的に合った電動工具を使用してくだ

さい。より適切、安全に作業ができます。
2) スイッチで始動、および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。スイッチで制御できない電動工具は危険です。修理を依頼してください。
3) 調整・付属品の交換・保管をするときは、必ず電動工具の電源プラグを電源コンセントから抜くか、電動工具からバッテリーを取り外してください。このような予防的安全手段により、不意の作動によるけがの発生が軽減されます。
4) 電動工具を使用しないときは、子供の手の届かない場所に保管してください。また、電動工具の取り扱いに不慣れな人や取扱説明書の内容を理解していない人には操作させないでください。電動工具を扱いなれていない人に渡すと、危険です。
5) 電動工具の保守を行ってください。電動工具の動きに影響を及ぼす恐れのある可動部分の心ずれや結合、各部品の損傷やその他の状態をチェックしてください。異常があった場合は使用せず、修理をご依頼ください。
多くの事故は、点検作業を怠ったことが原因となっています。
6) 先端工具は鋭利で清潔な状態を保ってください。先端工具を適切に手入れし、鋭利な状態を保っておけば、作業の円滑さを失うことなく、能率よく作業できます。
7) 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具などは、作業条件および作業内容を考慮して、それらの取扱説明書に従って、使う電動工具に合うように使用してください。
電動工具を意図した作業と異なる作業に使用すると、危険な状況になることがあります。
8) 電動工具は、25℃での使用を前提としていますが、時折、35℃になることも想定しています。

e) コードレス電動工具の使用および手入れ

1) 電動工具にバッテリーを挿入する前に、スイッチが“切”になっていることを確認してください。スイッチが“入”になっている状態でバッテリーを差し込むと、事故の原因になります。
2) 弊社が指定した充電器だけで再充電してください。バッテリーに適さない充電器を用いると、火災の危険があります。
3) 電動工具は、指定された専用のバッテリーのみを使用してください。指定外のバッテリーを使用すると、人的被害および火災をもたらす恐れがあります。
4) バッテリーを使用しないときは、クリップ、硬貨、鍵、釘、ネジなど、バッテリー端子を短絡させる恐れのある金属物から離してください。バッテリー端子の短絡によって、やけどまたは火災をもたらす恐れがあります。
5) 過酷な条件のもとでは、バッテリーから液漏れが発生する場合があります。直接触れないでください。誤って触れた場合は、水で洗い流してください。バッテリーの液が目に入った場合は、医師の診察を受けてください。バッテリーから漏れた液体は、炎症ややけどをもたらす恐れがあります。

f) 整備

電動工具の整備は、資格をもつ修理要員が純正の交換部品だけを用いて行ってください。これにより、電動工具の安全性を維持することができます。

g) その他

1) この電動工具は、安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子供を含む）が単独で使用しないでください。
2) 電動工具および本取扱説明書に使用されている記号の意味については、「記号について」を参照してください。

研削、研磨、ワイヤーブラシ研磨、つや出しまたは砥石切断作業に共通の安全警告

⚠警告

a) この電動工具は、グラインダー、サンダー、ワイヤーブラシ、砥石切断工具として機能するように意図されています。この電動工具とともに提供される全ての安全警告、取扱説明書、図解および仕様書をお読みください。次に列挙する全ての指示に従わなかった場合、感電、火災、大けがの原因となることがあります。
b) 弊社が、特に設計し、推奨している以外の先端工具は使用しないでください。単に電動工具に取り付けることができるということだけでは、先端工具は安全に作業できま

せん。
c) 先端工具は、定格速度が電動工具に表示されている最高速度以上のものを取り付けてください。電動工具の最高速度より遅い定格速度の先端工具は、破損し、飛び散ることがあります。
d) 先端工具は、外径および厚さが電動工具の能力定格内のものを取り付けてください。正しくないサイズの先端工具は、適切に防護または制御することができません。
e) 砥石、フランジ、固定ナット、その他の先端工具は、取り付け穴径が、電動工具のスピンドルに適合しているものを使用してください。電動工具の取り付け金具に合わない取り付け穴を持つ先端工具は、平衡を失い、過剰に振動し、また、制御の喪失をもたらすことがあります。
f) 破損した先端工具は使用しないでください。それぞれの使用の前に、砥石の欠けまたはひび割れ、ワイヤーブラシのワイヤーの緩みまたは亀裂など、先端工具を点検してください。電動工具または先端工具を落とした場合は、損傷していないことを点検するか損傷していない先端工具を取り付けてください。先端工具を点検し、取り付けた後は、回転している先端工具の面から離れ、周囲の人を遠ざけ、最高無負荷速度で電動工具を1分間運転してください。損傷した先端工具は通常、この運転中に破損して飛び散ります。
g) 作業者用保護具を着用してください。用途によっては、フェースシールド、安全ゴーグルまたは安全めがねを用いてください。適宜、砥石または加工品の小さな破片を遮断することができる防じんマスク、聴覚保護具、手袋および作業用エプロンを着用してください。目の防護は、様々な作業で発生する飛散破片を止めることができなければなりません。防じんマスクまたは呼吸マスクは、作業で発生する粒子をろ過できなければなりません。高いレベルの騒音への長時間の暴露は、聴覚喪失をもたらすことがあります。
h) 周囲の人を作業領域から安全な距離に離してください。作業領域に入る者は、作業者用保護具を着用しなければなりません。加工品または破損した先端工具の破片が飛び散って、作業領域周辺を越えてけがをもたらすことがあります。
i) 切断用先端工具が、隠れた配線または電動工具自身のコードと接触することがある作業を実施するときは、絶縁されたグリップ面だけで電動工具を保持してください。切断用先端工具が通電している配線と接触することによって電動工具の露出金属部は電気的充電部となり、作業者に電撃を与えることがあります。
j) コードは、回転している先端工具から離しておいてください。制御を失った場合、コードが切断されたり引っ掛かったりして、手または腕が回転している先端工具に引き込まれることがあります。
k) 先端工具が完全に停止するまでは、電動工具を下に置かないでください。回転している先端工具が表面に引っ掛かって、電動工具の制御を失わせることがあります。
l) 電動工具を身体の横に持っている間は、運転しないでください。回転している先端工具との不測の接触で着衣が引っ掛かり、回転している先端工具を身体に引き込む恐れがあります。
m)電動工具の空気口は定期的に掃除してください。モーターのファンは、粉じんをハウジングの内側に引き込み、粉末金属の過剰な蓄積は電気的な危険をもたらすことがあります。
n) 可燃性物質の近くでは、電動工具を運転しないでください。火花で、これらの物質を発火させることがあります。
o) 冷却液が必要な先端工具は使用しないでください。水、その他の冷却液を使用すると、感電死または電撃がもたらされることがあります。

キックバックおよび関連警告

⚠警告

キックバックとは、挟まったり引っ掛かったりしたときの、砥石、固定ナット、ブラシ、その他の先端工具の突然の反動です。挟まったり引っ掛かったりすると、先端工具は急停止し、このために無制御になった電動工具は、その拘束時点における先端工具の回転と反対方向へ押しやられます。
例えば、砥石が材料に挟まったり引っ掛かったりした場合、挟まった点に進入する砥石の端は、材料の表面を掘り進み、砥石が材料からせり上がったり、跳ね上がったりすることがあ

ります。
砥石は、挟まった時点の砥石の運動方向によって、作業者の方向またはその反対方向へ飛びます。これらの条件下では、砥石が破損することもあります。
キックバックは、電動工具の誤使用や誤った作業手順、作業状態の結果であり、次に示す適切な事前の措置を講じることによって回避することができます。

a) 電動工具をしっかり握り、身体および腕をキックバック力に耐えるように構えてください。作業中のキックバックまたはトルク反動に対する最大の制御のために補助ハンドルが備わっている場合は、これを常に使用してください。適切な事前の措置を講じておけば、トルク反動やキックバック力は作業者によって制御することができます。
b) 手は、絶対に回転先端工具の近くに置かないでください。先端工具が手の上にキックバックすることがあります。
c) キックバックが発生したときに電動工具が進む領域に身体を置かないでください。キックバックは、引っ掛かった時点の砥石の運動と反対の方向へ電動工具を進めます。
d) コーナーや鋭いエッジなどを加工するときは、特に注意してください。先端工具が跳ねたり引っ掛かったりすることを防止してください。コーナーや鋭いエッジなどを加工するとき、または飛び跳ねは、先端工具を引っ掛けて、制御不能またはキックバックを引き起こす傾向があります。
e) チェーンソーなど歯のある先端工具を取り付けないでください。
   ◆ 歯のある先端工具は、頻繁にキックバックと制御不能をもたらします。

研削および砥石切断作業に固有の安全警告

⚠警告

a) 電動工具に推奨されている砥石タイプ、および選択した砥石用に設計された特定の保護カバーだけを使用してください。電動工具の設計対象とされていない砥石は、適切に防護することができず、危険です。
b) 保護カバーは電動工具にしっかりと固定して、最大限の安全のために配置し、作業者の方向には最小限の砥石しか露出しないようにしてください。保護カバーは、破損した砥石の破片および砥石との不測の接触から、作業者を保護する手助けとなります。
c) 砥石は、推奨された用途だけに使用してください。例えば、切断砥石の側面で研削しないでください。切断砥石は砥石の円周で研削することを意図したもので、砥石に横方向の力を加えると、砥石を粉砕する恐れがあります。
d) 常に、使用する砥石に対応する適正なサイズおよび形状の、破損していないフランジを使用してください。適切なフランジは砥石を保持し、砥石破損の可能性を減少させます。切断砥石用のフランジは、研削砥石用のフランジと異なる場合があります。
e) 大型の電動工具用の、摩耗した砥石を使用しないでください。大型の電動工具用の砥石は、小型の電動工具の速い速度には適切ではなく、破裂する恐れがあります。

砥石切断作業に固有の追加の安全警告

⚠警告

a) 切断砥石をかみ込ませたり、過剰な圧力を掛けたりしないでください。過剰な切断深さを得ようとしないでください。砥石に過剰な圧力を加えると、切断時に負荷が掛かったり砥石がねじれたり、さらに挟み込みが起きやすくなったり、キックバックまたは砥石破損がおきたりする可能性が増大します。
b) 回転している砥石の一直線上、または、後方に身体を置かないでください。身体から砥石が離れていく向きに操作しているとき、キックバックが起こると、回転している砥石および電動工具が身体に直接向かって進むことがあります。
c) 切断中に砥石が挟み込まれた場合、または何らかの理由で切断を中断した場合は、スイッチを“切”にし、砥石の回転が完全に停止するまで電動工具を材料の中で動かないように保持してください。切断砥石が回転している間は、決して材料から外そうとしたりしないでください。そうしないと、キックバックが発生することがあります。砥石の挟み込みの原因を調べ、原因を排

除するための是正措置を講じてください。
d) 材料の中で切断作業を再始動しないでください。再始動するときは、砥石が最高回転に到達するのを待って、注意しながら切りロに砥石を入れてください。電動工具を材料内で再始動すると、砥石が挟み込まれたり、砥石が材料からせり上がったり、キックバックを引き起こしたりすることがあります。
e) パネルまたは特大の材料は、砥石の挟み込みやキックバックのリスクが最小限になるように支持してください。大きな材料は、質量でたわむ傾向があります。切断線の近くとパネルの端の近くの下に支持台を置いてください。
f) 既存の壁、その他の見えない部分に“ポケットカット”を行うときは、特に注意してください。壁面の裏側に出た砥石が、ガス管や水管、電気配線、キックバックを引き起こす原因となり得るものを切断する恐れがあります。

研磨作業に固有の安全警告

⚠警告

a) 大きすぎるサンディングディスクを使用しないでください。サンディングディスクを選択するときは、弊社の推奨事項に従ってください。サンディングラバーパッドのサイズを超える大きさのサンディングディスクは、けがをしたり、引っ掛かったり、サンディングディスクがちぎれたり、キックバックを引き起こしたりする原因となります。

ワイヤーブラシ研磨作業に固有の安全警告

⚠警告

a) 通常の作業中であっても、ワイヤーブラシのワイヤーが抜け落ちることがあるので注意してください。ワイヤーブラシに過剰な負荷を加えて、ワイヤーに過大な応力を与えないでください。ワイヤーブラシのワイヤーは、薄い衣服を貫通し、皮膚に突き刺さります。
b) ワイヤーブラシ研磨に保護カバーを使用する場合は、保護カバーにワイヤーホイールやワイヤーブラシが当たらないようにしてください。ワイヤーホイールやワイヤーブラシは、作業時の負荷や遠心力によって直径が拡大することがあります。

安全上のご注意

◆ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、ご使用前に、この『安全上のご注意』すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
◆ お読みになった後は、ご使用になる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
◆ 他の人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

コードレス電動工具全般についての注意事項

ここでは、コードレス電動工具全般の『安全上のご注意』について説明します。

⚠危険

● **ボッシュ専用の充電式バッテリー以外を使用しないでください。**
◆ この取扱説明書に記載されているバッテリー以外は充電しないでください。
◆ 改造したバッテリー（分解して、セルなどの内蔵部品を交換したバッテリーを含む）を使用しないでください。
電動工具の性能や安全性を損なう恐れがあり、けがや故障、発煙、発火などの原因になります。

● **バッテリーを火中に投入したり、加熱したりしないでください。**

● **バッテリーに釘を刺したり、衝撃を与えたりしないでください。**
◆ 内部で短絡してバッテリーが焼けたり、煙を出したり、破裂、オーバーヒートする危険があります。

● **バッテリーの端子部を金属などに接触させないでください。**
◆ バッテリーを金属と一緒に工具箱や釘袋などに保管しないでください。

● **電動工具やバッテリーを火のそばや炎天下などの高温の場所で充電・使用・保管・放置しないでください。**
◆ 発熱・発火・破裂・バッテリーの液漏れの恐れがあります。

● **専用の充電器以外では、充電しないでください。**
◆ 他の充電器でバッテリーを充電しないでください。
バッテリーの液漏れや発熱、破裂の恐れがあります。

● **バッテリーを分解したり、改造したりしないでください。**
◆ 短絡の恐れがあります。

● **バッテリーを水のような導電体に浸さないでください。**
また、バッテリー内部に水のような導電体を浸入させないでください。
◆ 発熱、発火、破裂の恐れがあります。

⚠警告

● **正しく充電してください。**
◆ バッテリーは、取扱説明書の指示に従って充電してください。
◆ 充電器は、定格表示してある電源で使用してください。直流電源やエンジン発電機では、使用しないでください。
◆ 仕様に記載されている推奨充電周囲温度範囲外で、バッテリーを充電しないでください。
◆ バッテリーは、換気の良い場所で充電してください。充電中、バッテリーや充電器を布などで覆わないでください。
◆ 充電器を使用しない場合は、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
◆ 不適切に充電したり、指定された範囲外の温度で充電すると、バッテリーが破損したり、火災が発生したりする恐れがあります。

● **充電器のコードを乱暴に扱わないでください。**
◆ コードが踏まれたり、引っかけられたり、無理な力を受けて損傷することがないように充電する場所に注意してください。

● **充電器のコードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。**

● **延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合は交換してください。**

● **感電に注意してください。**
◆ ぬれた手で電源プラグに触れないでください。

● **使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。**

● **ご使用済みのバッテリーは、一般家庭ゴミとして捨てないでください。**
捨てられたバッテリーが、ゴミ収集車内などで破壊されてショートし、発火・発煙の原因になる恐れがあります。

● **充電式でないバッテリー(マンガン乾電池等)は、充電しないでください。**

● **フル充電されたバッテリーを複数個続けて使用する作業では、電動工具が冷めるための時間を設けてください。**
◆ 複数個による連続作業は、電動工具に支障をきたすばかりでなく、電動工具の温度を上昇させて低温やけどをする恐れがあります。

● **損傷したバッテリーを使用したり、不適切な使い方をしたりしないでください。バッテリーから蒸気が発生する場合があります。**
蒸気が発生したときは、直ちに周囲を換気し、医者の診断を受けてください。
◆ 蒸気は呼吸器を刺激する恐れがあります。

● **作業に合った電動工具を使用してください。**
◆ 小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。
◆ 指定された用途以外に使用しないでください。

● **この取扱説明書、およびボッシュカタログに記載されているアクセサリー以外は使用しないでください。**
◆ 指定されたアクセサリー以外は、取り付けられたとしても安全に作業できない恐れがあります。

● **加工するものをしっかりと固定してください。**
◆ 加工するものを固定するために、クランプや万力などを利用してください。
手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

● **作業領域に電線管や水道管、ガス管などが埋設されていないか、適切な探知器で十分確認するか、公益事業者へ連絡をし**

て、助言を求めてください。
◆ 埋設物があると、先端工具が触れたとき事故の原因になります。
電気配線との接触は、発火や感電につながる恐れがあります。
ガス配管の損傷は、爆発につながる恐れがあります。
水配管の貫通は、器物破損の原因になります。

● **雨中での作業は行わないでください。また、電動工具を雨ざらしにしたり、ぬれた場所に置いたりしないでください。**
◆ バッテリーが発煙、発火、破裂する恐れがあります。

● **鉛コーティングしてある作業材料やある種の木材、鉱物や金属への作業から出るホコリやクズなどによっては、健康に悪影響を与えたり、アレルギー反応を引き起こしたりするものがあり、呼吸器の感染症やガンなどの原因となる可能性があります。**

● **先端工具が埋設された配線などに接触する恐れがある場合、電動工具の絶縁された握り部を持って作業を行ってください。**
◆ 絶縁部分を持っていないと、先端工具が通電している配線に接触して、電動工具の金属部に通電した場合、作業者が感電する恐れがあります。
絶縁部分で保持していると、感電する危険が小さくなります。

● **防音保護具を着用してください。**
◆ 騒音の大きい作業では、耳栓、耳覆い(イヤマフ)などの防音保護具を着用してください。

● **きちんとした服装で作業してください。**
◆ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
◆ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
◆ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

● **油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
◆ 電動工具を使用する場合は、取り扱い方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
◆ 常識を働かせてください。
◆ 疲れている場合は、使用しないでください。

● **電動工具にバッテリーを取り付けたり取り外したりするときは、スイッチが“切”になっていることを確認してください。**
◆ スイッチが“入”になっている状態でバッテリーを取り付けたり取り外したりすると、事故の原因になります。

● **先端工具は鋭利で清潔な状態を保ってください。先端工具を適切に手入れし、鋭利な状態を保っておけば、作業の円滑さを失うことなく、能率よく作業できます。**

● **スイッチで始動、および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。スイッチで制御できない電動工具は危険です。**
修理を依頼してください。

● **作業中に電動工具の調子が悪くなったり、異常音がしたりしたときは、直ちにスイッチを切ってください。使用を中止し、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。**
◆ そのまま使用していると、事故の原因になります。

● **無理して使用しないでください。**
◆ 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
◆ モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。

● **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電動工具からバッテリーを取り外してください。**
・使用しない、または修理する場合。
・刃物、砥石、ビットなどの付属品を交換する場合。
・その他危険が予想される場合。

● **誤って落としたり、ぶつけたりしたときは、電動工具や先端工具、付属品などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。**
◆ 破損や亀裂、変形があると、事故の原因になります。

● **作業場で粉じんの堆積は避けてください。**

◆ 容易に発火する恐れがあります。

● 定期的に電動工具の通気口を清掃してください。

◆ 通気口にほこりなどが蓄積されると、故障や事故の原因になります。

● 握り部は乾燥させ、油やグリースが付着していない状態を保ってください。

◆ 握り部が滑りやすいと、電動工具を確実にコントロールすることができず、けがや事故の原因になります。

● アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業含む)で使用しないでください。

◆ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発生させる物質です。

◆ アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業含む)で使用した電動工具の保守・点検・修理は受け付けできません。

● 電動工具を火のそばや、高温の場所に置かないでください。

◆ 爆発の恐れがあります。

● 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

● 損傷した部品がないか点検してください。

◆ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。

◆ 可動部分の位置調整、および締め付け状態、部品の破損、取り付け状態、その他運転に影響を及ぼすすべての個所に異常がないか確認してください。

◆ 電源プラグやコードが損傷した充電器や、落としたり、何らかの損傷を受けた充電器は使用しないでください。

◆ 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店、またはボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼してください。

● 使用しない場合は、きちんと保管してください。

◆ 乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または鍵のかかる所に保管してください。

◆ 電動工具やバッテリーを、温度が50℃以上に上がる可能性のある場所(金属の箱や夏の車内など)に保管しないでください。

● 安全上のご注意は、必ず守ってください。

◆ 電動工具の取り扱いに慣れると、安全の注意事項厳守を怠りがちです。電動工具操作中に、一瞬でも注意力が低下すると、重大なけがをする危険があります。

● 電動工具の修理は、専門店に依頼してください。

◆ サービスマン以外の人は電動工具、充電器、バッテリーを分解したり、修理・改造は行わないでください。

◆ 損傷したり、改造した電動工具やバッテリーを使用すると、予想外の動きをして、電動工具をコントロールできなくなります。

◆ この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。

◆ 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

● この電動工具は、安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人(子供を含む)が単独で使用しないでください。

◆ この電動工具で遊ぶことがないように、子供を監視することが望ましい。

● 搬送について

内蔵のリチウムイオンバッテリーは危険物法令条件に該当しますが、お客様自身で陸送される場合はそれ以上の制約はありません。
第三者が運搬する場合(例えば空輸あるいは代理店経由)、特別な梱包とラベルの明記が必要です。出荷準備をされる際、有害物質取り扱いの専門家に相談してください。

⚠注意

● 先端工具や付属品は、取扱説明書に従って確実に取り付けてください。

◆ 確実でないと外れたりし、けがの原因になります。

● 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。

◆ 材料や電動工具などを落としたときなど、事故の原因になります。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

ディスクグラインダーについての注意事項

コードレス電動工具全般の『安全上のご注意』について、前項では説明しました。
ここでは、ディスクグラインダーをお使いになるうえで、さらに守っていただきたい注意事項について説明します。

⚠警告

● **電動工具にBluetooth®送信機が装着されている場合、航空機内・病院内など、無線通信に制限がある場所では、それぞれの指示に従ってください。**
他の機器との干渉が起こることがあります。
(Bluetooth®送信機が装着できないモデルには該当しません。)

● **電動工具にBluetooth®送信機が装着されている場合、近くの人や動物に対して影響を与える可能性があります。**
(Bluetooth®送信機が装着できないモデルには該当しません。)

● **電動工具にBluetooth®送信機が装着されている場合、身体の近くで長時間使用しないでください。**
(Bluetooth®送信機が装着できないモデルには該当しません。)

● **コイン形電池を誤って飲み込まないように注意してください。**
コイン形電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
◆ コイン形電池を誤飲すると、2時間以内に胃酸で腐食が進み、死に至る危険があります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **コイン形電池を子供の手の届かないところに保管してください。**
コイン形電池を飲み込んだり、コイン形電池が体内に入った疑いがある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
◆ コイン形電池を誤飲すると、2時間以内に胃酸で腐食が進み、死に至る危険があります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **コイン形電池は充電しないでください。また、コイン形電池を短絡させないでください。**
◆ 充電したり、短絡させると、液漏れ、爆発、発火する恐れがあります。
◆ 電池から漏れた液は、炎症ややけどをもたらす恐れがあります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **この取扱説明書に記載されているコイン形電池以外は、使用しないでください。**
◆ 指定外のコイン形電池を使用すると、けがや事故の原因になります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **コイン形電池の交換が適切に行われていることを確認してください。**
◆ 適切に行われていないと、爆発の危険があります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **消耗したコイン形電池は取り外し、適切に廃棄・処理してください。**
残量がなくなったコイン形電池をそのままにしておくと、コイン形電池から液漏れする場合があります。
◆ 液漏れは、爆発や発火の恐れがあります。
◆ 液漏れは、故障の原因になります。
◆ コイン形電池から漏れた液は、炎症ややけどをもたらす恐れがあります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **コイン形電池を火中に投入したり、加熱したりしないでください。**
◆ コイン形電池が液漏れ、破裂、発火したりして、けがや事故の原因になります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **コイン形電池を傷つけたり、分解したりしないでください。**
◆ コイン形電池が液漏れ、破裂、発火したりして、けがや事故の原因になります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **損傷したコイン形電池が水に触れないようにしてください。**
◆ コイン形電池からリチウムが漏れ出た場

合、水と反応して水素を発生させ、火災、爆発、人身事故の原因になります。
(コイン形電池を使用しないモデルには該当しません。)

● **オフセット砥石は、最高使用周速度以上の正規の砥石を取り付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。**
◆ 正規以外の砥石を使用したり、また側面や上面で研削したりすると、砥石が破壊し、けがの原因になります。

● **中央が凹んでいる砥石を取り付ける場合は、砥石の研削面が保護カバーの端からはみ出ることがあります。保護カバーの端からはみ出る場合は、使用しないでください。**
◆ 保護カバーの端から砥石がはみ出していると、適切に保護できません。

● **先端工具に欠けやヒビ割れ、裂け、摩耗、緩みなどの異常がないことを確認してから使用してください。**
◆ 異常があると、アクセサリーが破壊し、けがの原因になります。

● **作業中は、電動工具を確実に保持してください。**
特に始動時は注意してください。
◆ 確実に保持していないと、振り回されたりし、けがの原因になります。

● **水、研削液などは使用しないでください。**
◆ 本機は乾式用のため、感電の恐れがあります。

● **電動工具を上向きにしたり、万力などで固定して使用しないでください。**
◆ 砥石やダイヤモンドホイールが破壊したとき、けがの原因になります。

● **切断砥石以外での切断作業はしないでください。**
◆ 切断砥石以外の砥石を使用すると、けがの原因になります。

● **作業中は、先端工具や切りくずなどに手や顔などを近づけないでください。**
◆ けがの原因になります。

● **[事業者の方へ]砥石の交換・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。**
関連法令
労働安全衛生法 第59条
労働安全衛生規則 第36条
労働安全特別教育規程 第1条、第2条

● **研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。**
◆ 火災ややけどの原因になります。

● **冷却液が必要な先端工具は使用しないでください。**
◆ 水やその他の冷却液を使用すると、感電または感電死の恐れがあります。

● **砥石が損傷している場合は、損傷していない砥石と交換してください。砥石を交換したら、電動工具を自分や周りの人から離した位置で持ち、最大回転数で1分間無負荷運転してください。**
◆ 交換した砥石が損傷していた場合、この作動により損傷がわかります。

● **保護カバーを必ず取り付けて使用してください。**
◆ 取り付けないと、先端工具(砥石など)が破損したとき、けがの原因になります。

● **切断砥石を使用する場合は、切断砥石用の保護カバーを取り付けてください。**
◆ 取り付けないと、切断砥石が破壊したとき、けがの原因になります。

● **研削砥石や切断砥石を使用する際、研削火花を吸じんしないでください。**
◆ 吸じんホースやクリーナーが引火し、火災の原因になります。

● **ジグザグに切断したり、電動工具をこじったりしないでください。**
◆ 強い反発力が生じたりし、けがの原因になります。

● **回転する先端工具に触れないでください。**
◆ 電動工具がコントロールできなくなったとき、手や腕が電動工具に巻き込まれる恐れがあります。

● **作業中、先端工具や保護カバー等が破損したときは、直ちにメインスイッチを“切”にして使用を中止し、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してくださ**

い。
◆ そのまま使用していると、事故の原因になります。

● 周囲の人を作業場から安全な距離だけ離してください。作業場に入る人は必ず保護具を着用してください。
◆ 作業付近から材料や破損したアクセサリーの破片が飛散したとき、けがをする恐れがあります。

⚠注意

● 本体が自動で停止したときは、メインスイッチを“切”にしてください。
◆ “入”のままにしておくと、不意の作動によりけがをする恐れがあります。
◆ 本体が自動で停止した状態でメインスイッチを“入”にし続けると、故障の原因になります。

● 作業直後の先端工具は高温になります。冷めるまで触らないでください。
◆ 触れると、やけどの原因になります。

● 先端工具が完全に停止するまでは、電動工具を床やテーブルなどに置かないでください。
◆ 先端工具が回転していると、表面に引っ掛かり、電動工具が引っ張られることがあります。

● 新しい砥石を取り付け、はじめてメインスイッチを“入”にするときは、回転面から一時身体を避けてください。
◆ 砥石が破壊したとき、けがの原因になります。

● 取扱説明書に記載されている用途以外の刃物(丸のこ刃、チップソーなど)での切断作業はしないでください。

● 試運転を励行してください。
試運転時間
砥石交換のとき…3分間以上
作業開始のとき…1分間以上
◆ 試運転せずに作業を開始すると、思わぬけがの原因になります。

本製品について

各部の名称

各部の名称の番号は、冒頭のイラスト内の番号を示しています。
(1)保護カバーリリースレバー
(2)先端工具の回転方向の表示
(3)スピンドルロックボタン
(4)バッテリー*1
(5)バッテリー取り外しボタン
(6)ダストフィルター(左右)
(7)メインスイッチ
(8)サイドハンドル(絶縁グリップ面)
(9)防振サイドハンドル(絶縁グリップ面)*1
(10)サンディング吸じんカバー(ブラシ付き)*1
(11)保護カバー
(12)切断砥石用保護カバー*1
(13)フランジ
(14)超硬カップホイール*1
(15)研削砥石*1
(16)切断砥石*1
(17)ダイヤモンドホイール*1
(18)固定ナット
(19)グリップ(絶縁グリップ面)
(20)スピンドル
(21)ハンドプロテクター*1
(22)サンディングラバーパッド*1
(23)サンディングディスク*1
(24)サンディングラバーパッド用固定ナット*2
(25)ピンスパナ
(26)カップワイヤーブラシ*3
(27)スパナ*3
(28)吸じんカバー*1
*1 別売品
*2 サンディングラバーパッド(22)のセット品
*3 市販品

標準付属品

モデル名	GWS 18V-8	GWS 18V-8
型番	GWS 18V-8N	GWS 18V-8NH
サイドハンドル	1個	1個
保護カバー	1個	1個
フランジ	1個	1個
固定ナット	1個	1個
ピンスパナ	1個	1個
リチウムイオンバッテリー 18V 5.0Ah	1個	—
充電器	1個	—

仕様

本体

モデル名	GWS 18V-8
型番	GWS 18V-8N GWS 18V-8NH
定格電圧	D.C.18V
定格回転数*4	11,000回転/分
最大研削砥石径	100mm
スピンドルネジ呼び径	M10
スピンドルネジ長さ	10mm
キックバック防止機構	●
再始動安全機構	●
ソフトスタート	●
質量*5*6	1.8～3.1kg
推奨充電周囲温度範囲	0℃～＋35℃
使用可能周囲温度範囲*7	−20℃～＋50℃
保管可能周囲温度範囲	−20℃～＋50℃
推奨バッテリー	GBA 18V 4.0Ah以上 ProCORE 18V 4Ah以上
原産国	中国

*4 IEC60745-2-3に準拠した先端工具選択用の無負荷回転数。
安全上・製造上の理由により、実際の無負荷回転数は、この値より低くなります。

*5 EPTAプロシージャー01/2014に準拠

*6 使用するバッテリーの容量、保護カバー、サイドハンドルの使用状況により異なります。

*7 0℃以下の環境では、設計上の十分な能力を発揮できないことがあります。

☞ 値は使用する工具の用途や環境条件により異なります。詳細についてはこちらをご覧ください。
www.bosch-professional.com/wac

使用可能ボッシュ充電器

品番	AL 18. . . *8 GAL 18. . . GAL 3680CV

使用可能ボッシュプロ用リチウムイオンバッテリー

品番	A 18. . . *8 GBA 18V. . . ProCORE 18V. . .

*8 ボッシュプロフェッショナル18Vシリーズに限る

使い方

バッテリーを準備する

☞ GWS 18V-8NHには、バッテリー・充電器は付属されておりません。別途お買い求めください。
使用可能なバッテリー・充電器の品番は、『ボッシュ電動工具 プロ用製品カタログ』を参照いただくか、弊社コールセンターフリーコールまでお問い合わせください。(フリーコールの番号は、本取扱説明書の裏表紙に記載されています。)

バッテリーを点検する

- バッテリーは弊社指定のものか?
- バッテリーから液漏れが発生していないか?
- バッテリー端子が傷んでいたり、汚れていたりしていないか?
- バッテリーは十分に充電されていて、消耗していないか?

バッテリーを充電する

充電については、充電器に付属されている取扱説明書をお読みになり、正しく充電してください。

バッテリー残量表示

バッテリー(4)の残量状態を、バッテリー(4)のバッテリー残量表示ランプで確認することが

できます。
バッテリー(4)のバッテリー残量表示ボタンを押すと、バッテリー残量表示ランプが点灯します。
☞ 安全のため、本体が停止しているときのみ、残量状態を確認することができます。
☞ バッテリー残量表示ボタンを押しても、バッテリー残量表示ランプが1つも点灯・点滅しないときは、バッテリー(4)が損傷しています。
バッテリー(4)を交換してください。
☞ 残量状態は、バッテリー(4)を本体から外していても、確認できます。

GBA 18V...

バッテリー残量表示ランプ	バッテリー残量
緑色3つ点灯	60～100%
緑色2つ点灯	30～60%
緑色1つ点灯	5～30%
緑色1つ点滅	0～5%

ProCORE 18V...

バッテリー残量表示ランプ	バッテリー残量
緑色5つ点灯	80～100%
緑色4つ点灯	60～80%
緑色3つ点灯	40～60%
緑色2つ点灯	20～40%
緑色1つ点灯	5～20%
緑色1つ点滅	0～5%

バッテリーを取り付ける・取り外す

⚠警告

◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、メインスイッチ(7)が“切”になっていることを確認してください。
◆ この取扱説明書に記載されているバッテリー(4)以外は、取り付けないでください。
指定外のバッテリー(4)を取り付けると、本体が誤作動したり、損傷したりする恐れがあります。

⚠注意

◆ バッテリー(4)を取り付けたり取り外したりするときは、必要以上の力を加えないでください。

取り付け

1. バッテリー(4)を、本体のバッテリー差し込み口に“カチッ”“カチッ”と2回音がするまで押し込みます。

☞ 本機は、バッテリー取り外しボタン(5)が押されただけではバッテリー(4)が外れないよう、バッテリー(4)の取り付けが二重ロックになっています。2回音がするまで押し込んでください。

2. 確実に固定されているか確認します。

取り外し

バッテリー取り外しボタン(5)を押しながら、バッテリー(4)を本体から引き抜きます。
☞ バッテリー(4)は、無理に引き抜かないでください。

作業前の準備をする

⚠警告

◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、作業前の準備をするときは、必ず本体からバッテリー(4)を取り外してください。

保護カバーを取り付ける・取り外す

・保護カバー(11)
・切断砥石用保護カバー(12)(別売品)
・サンディング吸じんカバー(10)(別売品)

⚠警告

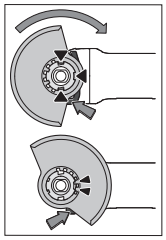
◆ 安全のため、作業に応じた保護カバーを取り付けてください。

・研削砥石(15)(別売品)を使用するときは、必ず保護カバー(11)を取り付けてください。
・切断砥石(16)(別売品)を使用するときは、必ず切断砥石用保護カバー(12)(別売品)を取り付けてください。
・ダイヤモンドホイール(17)(別売品)を使用するときは、必ず切断砥石用保護カバー(12)(別売品)または吸じんカバー(28)(別売品)を取り付けてください。
・超硬カップホイール(14)(別売品)を使用するときは、サンディング吸じんカバー(10)(別売品)を取り付けてください。

取り付け

下記の手順で保護カバー(11)を取り付けてください。
切断砥石用保護カバー(12)(別売品)、サンディング吸じんカバー(10)(別売品)も同じ手順で取り付けできます。

1. 本体を、先端工具を取り付ける側を上にして置きます。
2. 保護カバーリリースレバー(1)が支障なく動くことを確認します。
3. 本体の▲マークと保護カバー(11)の▲マークを合わせます。
4. 保護カバーリリースレバー(1)を押し込んで保持します。
5. 保護カバー(11)の肩部が本体のギアハウジングにしっかり当たるまで保護カバー(11)をスピンドルカラーに押し付け、"カチッ"とかみ合った音がはっきり聞こえるまで保護カバー(11)を回します。
6. 保護カバーリリースレバー(1)を押し込んだまま、保護カバー(11)を回転させ、作業者に火花が飛ばない位置に調節します。保護カバーリリースレバー(1)の赤いカムが、2つとも保護カバー(11)の切り欠きにかみ合うように保護カバー(11)を調節してください。



7. 保護カバーリリースレバー(1)を離します。
8. 保護カバー(11)が確実に取り付けられているか、確認します。

⚠注意

● 保護カバー(11)は、保護カバーリリースレバー(1)を押しているときだけ回ります。
保護カバーリリースレバー(1)を押していないのに保護カバー(11)が回ってしまうときは、どんな状況であっても電動工具を使用せず、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。

☞ 本機は、保護カバー(11)のキーによって、機種に合った保護カバーしか取り付けできないようになっています。

取り外し

下記の手順で保護カバー(11)を取り外してください。
切断砥石用保護カバー(12)(別売品)、サンディング吸じんカバー(10)(別売品)も同じ手順で取り外しできます。

1. 保護カバーリリースレバー(1)を押し込んで保持します。
2. 保護カバー(11)を回して、本体の▲マークと保護カバー(11)の▲マークを合わせます。
3. 保護カバー(11)を取り外します。
4. 保護カバーリリースレバー(1)を離します。

サイドハンドルを取り付ける・取り外す

防振サイドハンドル(9)(別売品)は振動を低減し、より安全で快適に作業できます。

Vibration Control

⚠注意

◆ 必ず、サイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)を取り付け、両手で本体を保持して作業してください。
◆ サイドハンドル(8)・防振サイドハンドル(9)を、改造しないでください。
◆ サイドハンドル(8)・防振サイドハンドル(9)が損傷しているときは、使用しないでください。

サイドハンドル(8)・防振サイドハンドル(9)は、左右どちら側でも取り付けが可能です。
作業しやすい側に取り付けてください。
サイドハンドル(8)・防振サイドハンドル(9)を右方向(時計方向)に回すとネジが締まり、左方向(反時計方向)に回すと緩みます。

先端工具を取り付ける・取り外す

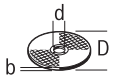
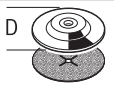
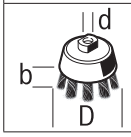
(4～5ページのイラスト参照)

⚠注意

◆ 先端工具を取り付けたり取り外したりするときは、手など身体を傷つけないように十分注意してください。
◆ 先端工具を取り付けたり取り外したりするときは、けがの発生を防ぐため、手袋を着用してください。
◆ 先端工具は、弊社が指定したものをご使用ください。
◆ スピンドル(20)と先端工具は常にきれいにしておいてください。
◆ 作業直後の先端工具は高温になります。冷めてから取り外してください。

◆ フランジ(13)を使用する先端工具(研削砥石(15)、切断砥石(16)など)の穴径に注意してください。中心穴の直径が、フランジ(13)に遊びがなく適合する必要があります。径違い継ぎ手やアダプターは使用しないでください。
◆ 先端工具が確実に取り付けられていることを確認してください。先端工具が正しく取り付けられていなかったり、しっかり固定されていなかったりすると、作業中に先端工具が緩んだり外れたりする恐れがあり、事故やけがの原因になります。
◆ スピンドル(20)が回転しているときに、スピンドルロックボタ(3)を押さないでください。スピンドル(20)が回転しているときに押すと、本体が損傷します。
◆ 損傷している固定ナット(18)は、使用しないでください。

先端工具は本機の定格回転数(仕様参照)に適したものをご使用ください。

	D 最大 (mm)	b 最大 (mm)	d (mm)	min^{-1}	m/s
	100	6.0	16.0	11,000	72
	100	—	—	11,000	80
	70	30	M10	11,000	45

研削砥石(別売品)

研削砥石(15)は、下記の手順で取り付けたり、取り外したりしてください。

☞ フラップディスクを使用すると、曲面や輪郭のバリ取りや研削が可能です。
フラップディスクは従来の研削ディスクに比べて寿命が大幅に長くなります。また、発熱も少なく、静かです。

取り付け

1. 保護カバー(11)が確実に取り付けられているか確認します。
他の保護カバーが取り付けられているときは、保護カバー(11)に交換してください。
2. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
3. スピンドルロックボタン(3)を離します。
4. スピンドル(20)にフランジ(13)の凹がかみ合うようにはめ込まれているか確認します。
5. 研削砥石(15)の内径を、フランジ(13)の凸に合わせてはめ込みます。
6. 固定ナット(18)の凸を本体側(砥石側)に向け、スピンドル(20)にねじ込みます。
7. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を締めます。*9*11
8. スピンドルロックボタン(3)を離します。
9. 研削砥石(15)が確実に取り付けられているか確認します。
研削砥石(15)を手で逆回転方向(先端工具の回転方向の表示(2)と逆方向)に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。
☞ 研削砥石(15)を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。
10. 研削砥石(15)が保護カバー(11)の内部に接触していないことを確認します。

*9 スピンドル(20)にはスピンドルロックボタン(3)がかみ合う位置があります。スピンドルロックボタン(3)を押しながら固定ナット(18)を回し、スピンドル(20)が確実にロックする位置を探してください。スピンドル(20)がロックする位置ではスピンドルロックボタン(3)が一段深く押し込めます。
*10 スピンドル(20)がロックされていないと、固定ナット(18)は緩めることができません。
*11 スピンドル(20)がロックされていないと、固定ナット(18)は締めることができません。

取り外し

1. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
2. スピンドルロックボタン(3)を離します。
3. 研削砥石(15)を取り外します。
4. 固定ナット(18)をスピンドル(20)にねじ込みます。

切断砥石(別売品)

切断砥石(16)は、下記の手順で取り付けたり、取り外したりしてください。
ダイヤモンドホイール(17)(別売品)や超硬カップホイール(14)(別売品)も同じ手順で取り付け・取り外しできます。

取り付け

1. 切断砥石用保護カバー(12)(別売品)が取り付けられているか確認します。
   他の保護カバーが取り付けられているときは、交換してください。

☞ 超硬カップホイール(14)を取り付けるときは、サンディング吸じんカバー(10)が取り付けられているか確認してください。

2. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
3. スピンドルロックボタン(3)を離します。
4. スピンドル(20)にフランジ(13)の凹部がかみ合うようにはめ込まれているか確認します。
5. 切断砥石(16)の内径を、フランジ(13)の凸部に合わせてはめ込みます。
6. 固定ナット(18)の凹を本体側(砥石側)に向け、スピンドル(20)にねじ込みます。
7. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を締めます。*9*11
8. スピンドルロックボタン(3)を離します。
9. 切断砥石(16)が確実に取り付けられているか確認します。
   切断砥石(16)を手で逆回転方向(先端工具の回転方向の表示(2)と逆方向)に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。

☞ 切断砥石(16)を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

10. 切断砥石(16)が切断砥石用保護カバー(12)の内部に接触していないことを確認します。

取り外し

1. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
2. スピンドルロックボタン(3)を離します。
3. 切断砥石(16)を取り外します。
4. 固定ナット(18)をスピンドル(20)にねじ込みます。

サンディングディスク(別売品)

サンディングディスク(23)は、下記の手順で取り付けたり、取り外したりしてください。

⚠注意

◆ 必ずハンドプロテクター(21)(別売品)を取り付けてください。

取り付け

1. 保護カバーが取り付けられていないことを確認します。
   取り付けられているときは、外してください。
2. サイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)(別売品)を取り外します。
3. ハンドプロテクター(21)をサイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)で本体に取り付けます。
   ハンドプロテクター(21)は、左右どちら側でも取り付けが可能です。
4. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
5. スピンドルロックボタン(3)を離します。
6. スピンドル(20)からフランジ(13)を取り外します。
7. スピンドル(20)にサンディングラバーパッド(22)(別売品)とサンディングディスク(23)をはめ込みます。
8. サンディングラバーパッド用固定ナット(24)の凸を本体側(サンディングラバーパッド側)に向け、スピンドル(20)にねじ込みます。
9. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)でサンディングラバーパッド用固定ナット(24)を締めます。*9*11
10. スピンドルロックボタン(3)を離します。
11. サンディングラバーパッド(22)とサンディングディスク(23)が確実に取り付けられているか確認します。
    サンディングディスク(23)を手で逆回転方向(先端工具の回転方向の表示(2)と逆方向)に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。

☞ サンディングディスク(23)を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

取り外し

1. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)でサンディングラバーパッド用固定ナット(24)を緩めて取り外します。*9*10
2. スピンドルロックボタン(3)を離します。
3. サンディングラバーパッド(22)とサンディングディスク(23)を取り外します。
4. フランジ(13)をスピンドル(20)にはめ込みます。
5. 固定ナット(18)をスピンドル(20)にねじ込みます。

カップワイヤブラシ(市販品)

カップワイヤブラシ(26)は、下記の手順で取り付けたり、取り外したりしてください。

⚠注意

◆ **必ずハンドプロテクター(21)(別売品)を取り付けてください。**

取り付け

1. 保護カバーが取り付けられていないことを確認します。
   取り付けられているときは、外してください。
2. サイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)(別売品)を取り外します。
3. ハンドプロテクター(21)をサイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)で本体に取り付けます。
   ハンドプロテクター(21)は、左右どちら側でも取り付けが可能です。
4. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
5. スピンドルロックボタン(3)を離します。
6. スピンドル(20)からフランジ(13)を取り外します。
7. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、スピンドル(20)にカップワイヤブラシ(26)をねじ込みます。
8. スピンドルロックボタン(3)を離します。

取り外し

1. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、カップワイヤブラシ(26)を緩めて取り外します。*9*10

☞ カップワイヤブラシ(26)がきつく固定されている場合は、カップワイヤブラシ(26)の固定部をスパナ(27)(市販品)で回すと外れます。

2. スピンドルロックボタン(3)を離します。
3. フランジ(13)をスピンドル(20)にはめ込みます。
4. 固定ナット(18)をスピンドル(20)にねじ込みます。

ダイヤモンドホイール(別売品)

(イラストB参照)

ここでは、吸じんカバー(28)(別売品)を装着してダイヤモンドホイール(17)を使用する場合の取り付け・取り外し手順を記載しています。

保護カバー(11)を装着して使用する場合は、22ページ「切断砥石」の取り付け・取り外しを参照してください。

取り付け

1. 保護カバーや先端工具を取り外します。
2. サイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)(別売品)を取り外します。
3. 吸じんカバー(28)の凸部を、スピンドルカラーの凹部に合わせてはめ込みます。
4. 吸じんカバー(28)のサイドハンドル取り付け穴と、本体のサイドハンドル取り付け穴の位置を合わせ、サイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)を取り付けます。
5. 吸じんカバー(28)が本体に確実に取り付けられているか確認します。
6. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
7. スピンドルロックボタン(3)を離します。
8. スピンドル(20)にフランジ(13)の凹がかみ合うようにはめ込まれているか確認します。

☞ ダイヤモンドホイール(17)の取り付け穴径が20mmの場合は、フランジ(13)を逆の向き(凸がかみ合う向き)で取り付けてください。

9. ダイヤモンドホイール(17)を、スピンドル(20)にはめ込みます。

☞ ダイヤモンドホイール(17)の回転方向に注意してください。
   先端工具の回転方向の表示(2)とダイヤモンドホイール(17)の矢印の向きが同じ方向になるようにはめ込んでください。

10. 固定ナット(18)の凹を本体側(ダイヤモンドホイール側)に向け、スピンドル(20)にねじ込みます。

11. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を締めます。*9*11
12. スピンドルロックボタン(3)を離します。
13. ダイヤモンドホイール(17)が確実に取り付けられているか、確認します。
    ダイヤモンドホイール(17)を手で逆回転方向(先端工具の回転方向の表示(2)と逆方向)に回し、緩みやガタがなければ取り付け完了です。

☞ ダイヤモンドホイール(17)を手で回転させるときは、手などを傷つけないよう、十分に注意してください。

14. ダイヤモンドホイール(17)が吸じんカバー(28)の内部に接触していないことを確認します。

取り外し

1. スピンドルロックボタン(3)を押しながら、ピンスパナ(25)で固定ナット(18)を緩めて取り外します。*9*10
2. スピンドルロックボタン(3)を離します。
3. ダイヤモンドホイール(17)を取り外します。
4. スピンドル(20)からフランジ(13)を取り外します。
5. サイドハンドル(8)または防振サイドハンドル(9)を取り外します。
6. スピンドル(20)から吸じんカバー(28)を取り外します。
7. フランジ(13)をスピンドル(20)にはめ込みます。
8. 固定ナット(18)をスピンドル(20)にねじ込みます。

作業する

⚠警告

- ◆ 必ず試運転作業を行い、砥石にヒビ割れがないことを確認してください。(労働安全衛生規則第118条)
  ※試運転時間
  •砥石交換時 3分間以上
  •作業開始時 1分間以上
- ◆ 材料が自重で固定されない場合は、万力やクランプなどを利用して、しっかりと固定してください。
- ◆ 建物の壁面などに溝を入れるときは、隠れた配線などを切断しないように注意してください。構造に関する情報を参照してください。
- ◆ 作業中は、回転が停止するような強い力で過負荷を与えないでください。
- ◆ 作業する前には、必ず先端工具を点検してください。ヒビ割れ、欠け、曲がりがある場合は、使用しないでください。
- ◆ 本機は乾式でのみご使用ください。
- ◆ 作業直後の先端工具は高温になります。やけどなどを負う恐れがありますので、完全に冷めるまで触れないでください。
- ◆ 作業中に先端工具が破損した場合、または保護カバーや本体の固定装置が損傷した場合は、作業を中止し、ボッシュ電動工具サービスセンターに点検・修理を依頼してください。
- ◆ 本体をスタンドなどに取り付けて使用しないでください。

電子セル保護システム(ECP機能)

本機には、電子セル保護システム(ECP機能)がついております。
本体が過負荷になった場合や、バッテリー(4)が過放電または作業可能温度範囲外になった場合、バッテリー保護のために本体が自動的に停止します。
上記の状態が解消されると、再始動することができます。
本体が自動で停止した状態でメインスイッチ(7)を“入”にし続けると、故障の原因になります。本体が突然停止したときは、メインスイッチ(7)を“切”にし、作業を一時中断してください。

キックバック防止機構

キックバック防止機構(キックバックコントロール)により、優れた保護機能が得られます。
本体に突然の反動(分離カットでの詰まりなど)が発生した場合、電源が“切”になります。再始動するには、メインスイッチ(7)を“切”にし、再度“入”にしてください。

再始動安全機構

作業中にバッテリー(4)が切れてしまった場合など、メインスイッチ(7)が“入”のままでバッテリー(4)を交換しても、安全機構が作動し本体は始動しません。
再始動するには、メインスイッチ(7)を“切”にし、再度“入”にしてください。

ソフトスタート

始動時の反動を低減します。
ソフトスタートは、メインスイッチ(7)を“入”にするとゆっくりと速度を上げます。

研磨・研削作業

⚠警告

◆ 保護カバーを取り付けて作業を行ってください。
◆ 研削火花を吸じんしないでください。

⚠注意

◆ 切断砥石を使用しないでください。

[1]本体にバッテリー(4)を取り付ける
19ページ「バッテリーを取り付ける・取り外す」参照

[2]メインスイッチ(7)を“入”にする
☞ メインスイッチ(7)は、研削砥石(15)が材料に触れない位置で“入”にしてください。

1. メインスイッチ(7)を本体の先端方向にスライドさせます。
   →先端工具が回転します。
☞ この時点ではメインスイッチ(7)は固定されていません。スイッチから指を離すと“切”の位置に戻り、回転が停止します。
2. メインスイッチ(7)の先端を本体に押し込みます。
   →スイッチが“入”に固定され、連続運転します。

[3]研磨・研削作業をする
作業は、回転が完全に上昇してから開始してください。
効率の良い作業をするには、砥石の全面を使用するのではなく、15°～30°傾け、外周部分で行います。
火花が一番多く出る状態が最適です。
☞ 押し付ける力は、本体の重さだけで充分ですので、無理に押し付けないでください。過度に荷重をかけると研削能力が低下するうえに、仕上げもきたなくなります。また、モーターの故障の原因にもなりますので注意してください。
☞ 本体に負荷がかかって熱くなったときは、最大回転で数分間無負荷で回転させて、冷ましてください。
☞ 新しい研削砥石(15)の場合は、砥石の角が取れるまで、後方に引いて使用してください。前方に押して使用すると、加工材に食い込むことがあります。

[4]メインスイッチ(7)を“切”にする
メインスイッチ(7)の後方を押します。
→スイッチが“切”の位置に自動的に戻り、停止します。

タイル、コンクリートなどの溝入れ(ダイヤモンドホイール使用)

⚠警告

◆ 水、研削液などは使用しないでください。
◆ 先端工具の回転方向の表示(2)とダイヤモンドホイール(17)の矢印の向きが同じ向きになっていることを確認してください。

⚠注意

◆ 乾式のダイヤモンドホイール(17)のみを使用してください。
◆ モーター焼損の原因となりますので、1回の切り込み量は20mm以下にしてください。
◆ 作業環境をクリーンに保ち、作業者の健康を守るため、吸じんカバー(28)を使用して吸じんシステムと接続し、粉じんを吸じんしながら作業を行ってください。
◆ 石材の粉じんを吸引するための承認を受けた集じん機やマルチクリーナーと接続してください。
◆ 作業中は防じんマスクを着用してください。
◆ 必ずハンドプロテクター(21)を取り付けてください。

☞ 構造壁の溝加工については、国の法規に従ってください。

[1]本体にバッテリー(4)を取り付ける
19ページ「バッテリーを取り付ける・取り外す」参照

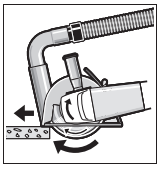
[2] メインスイッチ(7)を“入”にする
☞ メインスイッチ(7)は、吸じんカバー(28)のベースの先端を材料の上に乗せ、ダイヤモンドホイール(17)が材料に触れない位置で“入”にしてください。

25ページ「研削・研磨作業」の「[2]メインスイッチ(7)を“入”にする」参照

[3]溝入れ作業をする
本体をしっかりと保持し、ダイヤモンドホイール(17)の回転が上昇したら、ゆっくりとまっすぐ前方へ押し進めてください。決して無理をせず、切り終えるまで同じペースで押し進め

てください。
砂利の多いコンクリートなど、硬い材料を切断すると、ダイヤモンドホイール(17)が過熱して、損傷する恐れがあります。この状態は円形にスパークが飛ぶのではっきりわかります。このような場合は切断を中断し、最高速で空転（無負荷運転）させ、ダイヤモンドホイール(17)を冷ます。
著しく進み具合が悪くなったり円形にスパークが飛んだりするときは、ダイヤモンドホイール(17)が切れなくなっています。研磨材（石灰砂レンガなど）を何回か切断しダイヤモンドホイール(17)を磨いてください。

☞ 吸じんカバー(28)は、カバーの前方から吸じんを行います。本機を材料に対して垂直に接地し、適切なスピードで前方に押して作業を行ってください。



[4] メインスイッチ(7)を“切”にする
25ページ「研削・研磨作業」の「[4]メインスイッチ(7)を“切”にする」参照

金属類の切断（切断砥石使用）

⚠警告

◆ 水、切削液などは使用しないでください。
◆ 必ず切断砥石用保護カバー(12)を取り付けて作業を行ってください。
◆ 切断砥石以外の砥石で切断作業はしないでください。
◆ 切断火花を吸じんしないでください。

[1] 本体にバッテリー(4)を取り付ける
19ページ「バッテリーを取り付ける・取り外す」参照

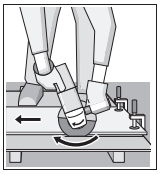
[2] メインスイッチ(7)を“入”にする

☞ メインスイッチ(7)は、切断砥石(16)が材料に触れない位置で“入”にしてください。

25ページ「研削・研磨作業」の「[2]メインスイッチ(7)を“入”にする」参照

[3] 切断作業をする

本体をしっかりと保持し、切断砥石(16)の回転が上昇したら、ゆっくりとまっすぐ前方へ押し進めてください。決して無理をせず、切り終えるまで同じペースで押し進めてください。



☞ 切断時は切断する材料に合った適度な速さで本体を動かして作業してください。
☞ 切断砥石(16)に力を加えたり、本体を傾けたり振動させたりしないでください。
☞ 側面から力をかけて切断砥石(16)の回転速度を下げないでください。
☞ 本体は、常に砥石の回転が抜ける方向に動かしてください。
☞ 輪郭や角材を切断するときは、断面の小さい箇所から切り始めるのが最適です。

[4] メインスイッチ(7)を“切”にする
25ページ「研削・研磨作業」の「[4]メインスイッチ(7)を“切”にする」参照

ギアハウジングの角度を調節する

（イラストA参照）

⚠警告

◆ 危険防止のため、必ずバッテリー(4)を本体から取り外してください。

ギアハウジングの角度を調節することにより、どのような作業状態でも使いやすく、安全なポジションが得られます。
ギアハウジングは、90°ずつ4方向に向きを換えて固定できます。

1. 先端工具や保護カバーなどを外します。
2. ギアハウジングを固定しているネジ（4本）を緩めて外します。
3. ギアハウジングを任意の方向に回します。ギアハウジングを本体から抜き取らないように注意してください。
4. ネジ（4本）を取り付けて締め、ギアハウジングを固定します。

バッテリーを長持ちさせるために

◆ 長時間（6か月以上）使用しない場合は、満充電にしてから保管してください。
◆ 満充電にしたバッテリーを、再度充電しないでください。
◆ 工具の力が弱くなってきたと感じた場合は使用を中止し、充電してください。

リサイクルのために

使用済みバッテリーのリサイクルにご協力ください

ボッシュは一般社団法人JBRCに加盟し、使用済みコードレス電動工具用バッテリーのリサイクルを推進しております。
恐れ入りますが使用済みのバッテリーは、ボッシュ電動工具取扱店、ボッシュ電動工具サービスセンター、またはJBRCリサイクル協力店へお持ちくださいますようお願いいたします。

http://www.jbrc.com/

Li-ion

本製品は、リチウムイオンバッテリーを使用しています。リチウムイオンバッテリーは、リサイクル可能な貴重な資源です。使用済みバッテリーのリサイクル活動にご協力くださいますよう、お願いいたします。
ご使用済みのリチウムイオンバッテリーは、本体から取り外し、ショート防止のためバッテリー端子部に絶縁テープを貼ってお出しください。

お手入れと保管

⚠警告

◆ 不意の作動によるけがの発生を防ぐため、バッテリー(4)を本体から取り外して、お手入れしてください。

クリーニング

通風口などに付いたゴミやホコリを吹き飛ばす

☞ 本体に切り粉やホコリがたまると故障の原因になります。

バッテリー取り外しボタン(5)やバッテリー装着部分に付いたゴミ、ホコリを吹き飛ばす

乾いた、柔らかい布で本体の汚れをふき取る

☞ 変色の原因になるベンジンなど、溶剤を使わないでください。

モーターを無負荷運転させる

保管

使った後は、バッテリー(4)を取り外し、きちんと保管する

- 子供の手が届くところ、または錠が掛からないところに置かない。
- 風雨にさらされたり、湿度の高いところに置かない。
- 直射日光が当たったり、車中など高温になるところに置かない。特に、50℃以上になるところに置かない。
- バッテリーは、−20℃～＋50℃の範囲で保管する。
- ガソリンなど、引火性が高いものの近くに置かない。
- ショートを防ぐため、バッテリー端子に絶縁テープを貼る。

廃棄について

バッテリー以外の本体および付属品の廃棄については、各地域自治体にその方法を確認し、正しく廃棄してください。

困ったときは

故障かな?と思ったら

① 『取扱説明書』を読み直し、使い方に誤りがないか確かめてください。
② 充電については、『充電器の取扱説明書』を読み直してください。
③ 次の代表的な症状が当てはまるかどうか確かめてください。

メインスイッチ(7)を“入”にしても作動しない

原因	対処
バッテリー(4)が取り付けられていない	バッテリー(4)を取り付ける
バッテリー(4)が消耗している (電子セル保護システムが作動した)	バッテリー(4)を充電するか交換する

原因	対処
バッテリー(4)の温度が最適温度範囲外になっている	バッテリー(4)が最適温度範囲内になるまで待つか交換する
本体の温度が最適温度範囲外になっている	作業可能温度範囲内になるまで待つ
本体が故障している	ボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼する

メインスイッチ(7)を“切”にしても、作動したまま止まらない

原因	対処
内部パーツの不良	バッテリー(4)を取り外し、ボッシュ電動工具サービスセンターに修理を依頼する

作業に時間がかかる

原因	対処
先端工具が摩耗している	先端工具を研磨するか、交換する
バッテリー(4)が消耗している	バッテリー(4)を充電するか交換する

充電しても、フル充電しない。または、フル充電しても、使用時間が短い

原因	対処
バッテリー(4)が購入直後か、長時間使用していない	バッテリー(4)を充電する
バッテリー(4)の寿命が尽きた	バッテリー(4)を交換する

修理を依頼するときは

- ◆『故障かな?と思ったら』を読んでもご不明な点があるときは、お買い求めの販売店または弊社コールセンターフリーコールまでお尋ねください。
- ◆ 修理を依頼されるときは、お買い求めの販売店またはボッシュ電動工具サービスセンターにご相談ください。
- ◆ この製品は厳重な品質管理体制の下に製造されています。万一、本取扱説明書に書かれたとおり正しくお使いいただいたにもかかわらず、不具合（消耗部品を除きます）が発生した場合は、お買い求めの販売店または、ボッシュ電動工具サービスセンターまでご連絡ください。

弊社で現品を点検・調査のうえ、対処させていただきます。お客様のご使用状況によって、修理費用を申し受ける場合があります。あらかじめご了承ください。

コールセンターフリーコール
0120-345-762
土・日・祝日を除く、午前9:00～午後5:30

ボッシュ株式会社ホームページ
http://www.bosch.co.jp

ボッシュ電動工具サービスセンター
〒355-0813
埼玉県比企郡滑川町月輪1464番地4
TEL 0493-56-5030
FAX 0493-56-5032

ボッシュ電動工具サービスセンター西日本
〒811-0104
福岡県糟屋郡新宮町的野741-1
TEL 092-963-3486
FAX 092-963-3407

保証サービスについて

プロ用電動工具・メジャーリングツール保証サービス『PRO360』のご案内

2022年10月より、弊社ホームページからユーザー登録をしていただいたお客様を対象に、購入日より2年間の保証サービスを実施させていただきます。
保証サービスの詳細および登録に関しては、弊社ホームページまたは下記URLでご確認ください。
https://www.bosch-professional.jp/jp/ja/service/

Licenses

Copyright © 2015, Infineon Technologies AG
All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the copyright holders nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Warranty Disclaimer
This product contains Open Source Software components which underly Open Source Software Licenses. Please note that Open Source Licenses contain disclaimer clauses. The text of the Open Source Licenses that apply are included in this manual under "Licenses".

ボッシュ株式会社 電動工具事業部
ホームページ:http://www.bosch.co.jp
〒224-0003
神奈川県横浜市都筑区中川中央1丁目9-32

コールセンターフリーコール
0120-345-762
(土・日・祝日を除く、午前9:00～午後5:30)

1 609 92A A0N (2024.11)

1 609 92A A0N

- 本取扱説明書に記載されている、日本仕様の能力・型番などは、外国語の印刷物とは異なる場合があります。
- 本製品は改良のため、予告なく仕様等を変更する場合があります。
- 製品のカタログ請求、その他ご不明な点がありましたら、お買い求めになった販売店または弊社までお問い合わせください。